



## 讃志会

### 質問者

おくのやすひさ  
奥野泰久議員

### 所属議員

ひがしかわさぶろう  
東川三郎議員

おおやまもりひさ  
大山盛久議員

はらだ  
原田てつよ議員

やまもと さとし  
山本 聡議員

### 笠岡市の将来人口について問う

議員 本市の人口について、見込みと新たな将来像をたずねる。

市長 令和7年の将来人口は4万3千6人である。しかし、生産年齢人口が増加し、人口の好循環が生まれると、総合計画に掲げる将来ビジョンの実現につながる。

議員 人口予測等により、市民病院建設計画に影響はないのか。

健康福祉部長 現在では大きな影響はないと考えている。

議員 笠岡駅周辺整備の進捗をたずねる。

建設部長 南口の整備を基本に、橋上化、南北自由通路などの整備を、令和9年度を目途に進めている。

きたいと考えている。

議員 労働生産性の減少傾向が続いている。企業誘致や設備投資と比例していないのではないか。

産業部長 減少理由を特定することとは難しい。企業の設備投資が進むことで付加価値額が増加すると思われるので、推移を見守りたい。

### 物価高対策について問う

議員 物価高に対する本市の考え、生活への影響についてたずねる。

市長 広く全体的な支援ではなく、苦しい状況にある方々に限定した支援を行う方針としている。今後追加が見込まれる国の交付金等を有効に活用し、生活に大きな影響を受けている方に届くような支援施策を考えていきたい。



## 公明党

### 質問者

さいとうかずのぶ  
齋藤一信議員

### 所属議員

おおもとくにみつ  
大本邦光議員

### 笠岡市のバスの現状は大丈夫？

議員 本市の今日までの陸上公共交通はどのような現状なのか。その評価と公設民営の維持について、今後の見通し、方針をたずねる。

政策部長 人口減少や高齢化や、コロナ禍による外出自粛が追い打ちをかけたことで、令和元年度まで45万人前後で推移していた利用者が、令和3年度では38万人まで減少した。バス路線を取り巻く環境は非常に厳しいものであり、財政面では本市も負担金で補填しているが、年々負担金が増加しているとともに、今後も見通しが立たないコロナ禍や、社会生活の変化などにより、コロナ禍以前の利用者数には戻らないと懸念される調査機関の結果も出ていて、本市としても厳しい状況が続くものと認識している。令和2年度では、長

引くコロナ禍の影響により、利用者が半数近くまで落ち込んだ結果、市負担額が2千万円以上増加し、市民1人あたりの負担額が倍増している。今後も負担額の増加が引き続き予測されるため、より効率的な運営を行い、本市の負担額の減少を図る必要がある。各地域の高齢者や学生の皆様が移動に不便がないよう環境整備を行いたい。

議員 あらゆる町が、子育て世帯や高齢者への利用促進に手を打っている。本市ではそれ以外の方たちへも利益の享受、ベーシックサービス的な施策を、路線バスの公共交通の維持をするために打ち出す必要があると思っている。路線バスを支え、守っていくために、一層の真剣な取組をお願いしたい。